

設備投資支援

HOPDOG  
BREWING  
合同会社

産地を盛り上げ、守りたい。  
消費者と産地を繋げる  
クラフトビール醸造所を設立



地元産の原材料を使用した  
クラフトビールとハードサイダー(シードル)を  
中心に製造予定



HOPDOG BREWING  
合同会社

長谷川 信 Hasegawa Makoto

〒010-0012  
秋田市南通みその町6-27  
TEL:018-853-9168  
<https://hopdogbrewing.jp/>

地元に基づいた場所を遺したい

2022年10月、秋田市で設立されたHOPDOG  
ブルーイング  
BREWING合同会社。代表の長谷川信さんは、  
長年秋田市の企業でビール醸造に携わって  
きた経歴を持つ。長谷川さんが醸造所として  
選んだのは、85年もの間地域住民に愛され、惜し  
まれながら2021年2月に廃業した銭湯「星の湯」  
の跡地だった。なぜ、その場所を選んだのか。

「建物って壊されて無くなってしまおうと、あれ  
ここ前なんだったかな?と思わせなくなって  
しまいますよね。一般的に醸造所は新設する  
ことが多いのですが、今回設立にあたって場所  
を探していたところ、星の湯がテナント募集  
しているのを見かけました。調べてみると、  
地元の方に本当に愛されていた銭湯だった  
ことが分かって。秋田は古い建物を壊してしまう  
事例が多くて、残念だなと思っていたのでこの  
場所に決めました」。

地元に基づいていた場所を大切にしたい、  
その思いは今回の醸造所設立に至った経緯  
とも繋がるものだ。

醸造を通して農産物に価値を付加したい

横手市はホップの産地だが、高齢化により  
引退する農家が多く、産地が消滅する可能性が  
ある。長谷川さんはこれを危惧していた。

「ホップはそのままでは消費できず、生産者と  
消費者を繋ぐためには加工する事業者が必要  
です。より自由に人を巻き込みながらホップ  
業界を支えたいと起業を決意しました」。

長谷川さんが懸念しているのはホップ業界  
だけに留まらない。秋田県内にはさまざまな  
農産物があるが、若い人材が不足し、続けて  
いくことが難しい農産物は他にもある。

「味は同じでも出荷基準を満たせないで廃棄  
されてしまうものもあります。そういった原材  
料を加工して醸造できれば価値が生まれる。  
今後、農家との繋がりを少しずつ増やして、  
貢献できたらと考えています」。

活性化センターの設備貸与のサポートを  
受け、ボイラーと冷蔵庫は搬入済み。秋田の  
新たな醸造所で、秋田ならではのクラフトビール  
やハードサイダーが造られる日が待ち遠しい。

▶活用事例  
設備投資支援

設備の導入により、経営基盤  
の強化を目指す企業に対し、  
必要とする設備を割賦販売  
またはリースします。

【お問い合わせ】  
設備・研究推進課  
TEL.018-860-5702



あえて「星の湯」の看板を残した理由は、  
ここが何だったかを忘れてほしくないという思いから。



銭湯の面影があちらこちらに残る工場内。  
ビールの泡がこんもりとした奥の壁面に目を奪われる。



世界に通用するものを作りたいという思いから、  
世界で知られる「秋田犬」をモチーフとしたロゴマーク。